



う宣言がなされました。また、ユニセフは、SDGsの前文で「すべての人々の人権を實現し」と述べています。このように、様々な場面で人権と環境は結び付けられているのです。このようなことから、私たち環境委員会で、放送による意識付けや集会等での発表、クイズの出題などを企画し、人権と環境との関わりについて考えられる様な取組を行っていきます。そのように考えるきっかけとなったのは、やはり、「水俣病」学習での学びです。この水俣・芦北の地で生まれ育った私たちにとつて、大きな環境問題と言えるのが「水俣病」です。その水俣病により身体の苦しみだけでなく、差別や偏見により心の苦しみを抱えなければならなかった人々が多くいるということ、そして、そのような差別で、今もなお苦しんでいる人たちがいることを知りまし

た。そして、何より、自分自身が「人権」に

ついで改めて考え直すことができました。そして、やはり、環境と人権は切り離して考えることはできないと実感しました。

私は、田浦中学校の全校生徒にもっと色々な視点からこのことについて考えてもらいたいと思います、あらゆる資料で調べました。そして、分かったことがたくさんありました。

例えば、世界中から一億六千トンという莫大な量のプラスチックゴミが集められた地域では、それを燃やして出る有害なガスによって健康被害が出たり、土地が汚染されてしまったりするという大きな問題が出ています。

今、様々な企業で、プラスチックゴミを削減する取組がなされていますが、私たちが何気なく生活している日常には、ありとあらゆるプラスチッククゴミが存在していることに改めて気付かされました。そして、その行方についても考えてみるものが、環境を大切にすること、様々な人たちの生活する権利を守ることに、もつながっていくのだというのを放送

で伝えました。  
さらに、私たち環境委員会では、ゴミ分別  
やリサイクル、節電・節水の呼びかけを行っ  
たり、ISOチェックを定期的に行ったりす  
るなど、環境保全に対する意識付けを図って  
います。

小さなことかもしれませんが、このような  
活動を継続していくことが、水俣病が発生し  
た水俣・芦北の地に住む中学生としての義務  
であり、責任であると強く思います。そして、  
このような活動の輪をどんどん広げていき  
たいと思っています。